

令和4年度 施策評価シート

施策の大綱	1. 快適さを支える生活基盤の向上	評価担当者
基本施策	(9) 自然との共生	産業環境部長 富田 真左哉
目指す姿	豊かな自然の恵みが良好に保たれ、次世代に受け継がれています	
関連する分野別計画	第2次亀山市環境基本計画	

■SDGs

基本施策に関連するSDGsのゴール	     
SDGs推進の考察	<p>森林整備の実施により、水源涵養、土砂流出防止、二酸化炭素吸収等、森林の公益的機能の維持増進を図ることで、気候変動対策、生態系保全につなげることができた。また、生態系保全に関し、環境イベント等を通じ、意識啓発を図ることができた。さらに、環境イベント等については、官民連携したパートナーシップにより施策の推進を図ることができた。今後も、鈴鹿川等の源流域や田園等の自然環境並びに農林地の多面的機能の維持・保全を図る必要がある。</p>

■関連する主な事業

(単位:千円)

施策の方向	事業名	実績・成果等		
		上段: 予算額	下段: 決算額	
①	みえ森と緑の県民税市町交付金事業	5,566	5,536	「みえ森と緑の県民税・2つの基本方針」の推進を図るため、自然・森林との関係が身近となるイベントを開催し、自然や森林と共生する意識の醸成、森林の持つ多面的機能への理解向上を図ることができた。
②	森林環境創造事業	14,256	14,041	伐捨間伐を実施することで、森林の公益的機能(水源かん養、土砂災害防止、二酸化炭素吸収による地球温暖化防止等)の維持増進が図られた。
②	森林経営管理事業	27,054	26,665	集積計画を取得する前段となる意向調査・境界明確化を行い森林整備を実施できたことで森林の持つ多面的機能の維持・発揮に寄与することができた。
②	中山間地域等直接支払交付金事業	12,832	12,827	計画的に交付金を交付することで協定書のとおり耕作放棄地の防止や、農地の持つ多面的機能が確保でき、農地の保全に大きく寄与することができた。
②	多面的機能発揮促進事業	14,556	14,556	補助金の交付により農地周辺の草刈、農道の簡易補修などの取組組織の活動を支援することで、農地が保全され農業・農村の多面的機能の維持・発揮と農道などの施設保全が実施された。
②	田園環境保全事業	1,368	1,368	補助金の交付により景観作物の作付が行われ、農村景観の向上等に繋がった。また、一団の景観作物の風景の見学に市内外から訪れるなど亀山市を広くPRすることができた。
②	市単土地改良事業	42,652	36,848	令和4年度には農業用施設の改良支援を7件行った。農地保全のため、地域が実施する農業用施設整備工事の支援を32件行うことができたことで農業用施設の延命化が図られた。
②	森林環境整備基金積立金	29,106	28,128	令和4年度に譲与された森林環境譲与税収入と森林経営管理事業費の差額及びふるさと納税寄附金を積み立て、次年度以降の財源の確保を行うことができた。
④	里山公園管理費	4,561	4,369	日常的な運営やイベント、出前トークにより、園内の自然を利用し、自然と親しむ場と機会を提供した。一方、施設が老朽化しているが、予算不足により更新が行えていない箇所がある。
④	森林公園管理費	3,619	3,600	森林公園「やまびこ」園内を整備し、安心して訪れていただける環境づくりに努め、地元保育園が自然との触れ合いの場として積極的に利用された。

太字: 主要事業

■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1 鈴鹿川等源流の森林づくり協議会による取り組みへの参加者数	人	199	R2	190				300
2 森林整備面積(累計)	ha	1,646	R3	1,721.11				2,040
3 環境に関するイベント等への参加者数	人	4,460	R2	7,105				9,000
4								
5								
6								
7								
8								

■ 市民アンケート調査

項目		現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 自然環境が豊かである	重要度	1.21			— 令和5年度の市民アンケートの結果を踏まえて、次年度に考察します。
	満足度	1.12			
2 自然環境と調和した開発が適切に行われている	重要度	1.05			
	満足度	▲ 0.18			
3 森林・里山や農地が保全されている	重要度	1.07			
	満足度	▲ 0.01			
4 自然とふれあえる場所や機会が充実している	重要度	0.99			
	満足度	0.29			

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 鈴鹿川等源流域の保全・継承	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動を支援するとともに、開発行為に対して鈴鹿川等源流域の自然環境を保全する制度の構築を進めていく。
② 森林・里山・農地の保全	農地や森林の持つ多面的機能を維持・発揮するため、農地、水路等の地域資源の保全活動と森林整備を支援した。引き続き保全活動に対し支援する。
③ 多様な生態系の保全	市民団体や事業者とともに、希少野生動物植物種の保護を実施した。今後、多様な主体の取組を促進する制度の構築と推進により、生物多様性保全の機運向上を図る。
④ 環境教育の推進	自然公園の利用促進と、園内における環境教育に係る情報の発信を行った。今後は市民団体との連携を強化しつつ、かめやま出前トークと連携した環境教育を推進する。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

鈴鹿川等の源流の保全・継承については、新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、イベントの参加者数を制限せざるを得ないことから、成果指標の目標値には達しなかったが、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会において事業所など多様な主体と連携し、市民が自然環境と触れ合う機会や学習する機会を提供できた。また、森林・里山・農地の保全については、国・県の補助金を活用し、農地・森林・水路・農林道の維持管理が協定団体や事業体で実施されるとともに、森林環境創造事業及び森林経営管理事業により、適切な間伐が実施され、農地や森林が持つ多面的機能の維持・発揮や田園景観の向上等が図れた。さらに、植樹祭の開催により、地域の緑化環境の整備に繋げることができた。多様な生態系の保全、環境教育の推進については、三重県産材を使用した幼稚園・保育園等での木とふれあう工作体験等を通じて、森の大切さを伝えるとともに、里山公園を活用した環境教育イベントの推進や、生物多様性の保全について、環境団体と緊密に連携することで、専門性の高い取組を継続的に実施できた。さらに、かめやま出前トークにより里山公園の魅力発信することで、保育園や幼稚園を中心に、利用を促進することができたが、一方で、未だに里山公園の存在を知らない市民も多いことから、これまでと違った視点や手法により、施設の魅力発信に取り組む必要がある。全体としては、基本施策で設定した成果指標に達していないものの、概ね順調に進んでおり、総合的には基本施策が目指す姿にますます近づいている。

B

まずは進んだ

今後の展開方針

豊かな自然との共生を図るため、引き続き、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会や多様な主体と連携し、自然とのふれあい事業の開催等、鈴鹿川等の源流の自然環境等を守り継承するための活動を行っていく。また、農地や森林が有する多面的機能を維持・発揮していくため、地域資源の維持管理や保全に対する国・県等の補助金の活用を地域に積極的に働きかける。さらに令和5年度より国が行う「自然共生サイト」の認定を受けるべく、これまでの取組みや生物多様性の知見を集約し、申請を行うとともに、新たに市独自のOECM制度を構築し、生物多様性保全にかかる機運の向上、人材の確保・育成等に取り組む。また現在、複数の部署で生物に関する業務を所管しているが、今後は、一元的に業務を行う必要がある。さらに、毎年行っている植樹祭については、広く市民に参加いただけるような植樹祭への見直しの検討のほか、身近な自然を守っている里山公園がさらに多くの方に利用いただけるよう、ネイチャースポーツや文化・芸術といった新たな視点での魅力発信についても検討する。